

## 令和5年度第1回(第56回)栗東歴史民俗博物館協議会 議事録

開催日時 令和5年10月24日(火曜日)10時00分から11時40分まで

開催場所 栗東歴史民俗博物館 研修室

出席者

協議会委員 大西 洋子(会長)、奥野 初恵(副会長)、  
宇野 日出生、大橋 信弥、國賀 由美子、鈴木 元彦、高宮 弘、  
西尾 悦子、林 優里 の各委員(9名)

事務局 小林 弘美(教育部長)  
福田 茂幸(スポーツ・文化振興課 課長 兼 歴史民俗博物館 館長)  
大西 稔子(歴史民俗博物館 副館長 ・ 学芸員)  
中川 敦之(歴史民俗博物館 係長 ・ 学芸員)  
栗本 昌芙実(歴史民俗博物館 主査)

欠席者 川那部 隆徳 委員

傍聴者 0名

### 概要

1. 開会

2. 協議事項

- ①会長及び副会長の選任について
- ②令和5年度上半期の博物館事業について(報告)
- ③令和5年度下半期の博物館事業について
- ④令和5年度第2回(第57回)栗東歴史民俗博物館協議会の日程について
- ⑤その他

3. 連絡事項

4. 閉会

## 議事

### 1. 開 会

開会の挨拶（小林 弘美 教育部長）

### 2. 協議事項

#### ①会長及び副会長の選任について

委員の互選により大西 洋子 会長、奥野 初恵 副会長を選任。  
就任の挨拶（大西 洋子 会長）

#### ②令和5年度上半期の博物館事業について（報告）

資料に沿って、事務局 中川 敦之 係長より一括説明。

（会 長） 限られた人員の中で、施設の管理も含めて多様な事業に取り組まれていると思う。敬意を表したい。

#### ③令和5年度下半期の博物館事業について

資料に沿って、事務局 中川 敦之 係長より説明。

（A 委 員） 「博学連携事業」として、小学校・中学校との連携に取り組まれているが、高校との連携はどうなのか。栗東高校には美術科もあるが、過去のことも含めて、取り組みがあれば教えていただきたい。

（事 務 局） 歴史民俗博物館が開館した当初に、栗東高校美術科の卒業作品展を開催していたことがある。現在はより広い展開を図るため、滋賀県立美術館で開催されていると聞いている。

栗東高校の美術科の教員には、「卒業作品展ではなくても、何かしらの作品展等で歴史民俗博物館を利用してもらえれば、栗東高校に美術科があるということのPRにもなると思う」という話はしたことがあるが、実現には至っていない。

（B 委 員） 4点、伺いたい。

1点目に、人員について、近年はコロナ禍のため様々な事業が縮小傾向となっていたが、コロナ禍も落ち着き、事業を元の状態に戻し拡大していく流れがある。その中で、当館の人員は不足しているように見受けられるが、考えを伺いたい。

2点目に、資料の寄贈・寄託について説明があったが、一方で、以前から収蔵スペースにゆとりがないという話も伺っている。自身が勤務していた滋賀県立近代美術館（現在の滋賀県立美術館）でも、寄贈のお申し出に堪えられないという問題を抱えており、資料の受け入れ基準に関する内規を設けて判断していた。そのようなものをお持ちなのか教えていただきたい。

3点目に、寄託資料の中に「刀剣」があるが、手入れが必要な資料かと思

う。これまでに収蔵している刀剣があるのかも含めて、どのように対応されているのか伺いたい。

4点目に、修繕工事の中に「空調設備更新工事」とあるが、どのような工事をされたのか教えていただきたい。

(事務局) まず2点目について、内規は持っていないが、「資料収集方針」は作っており、ホームページでも公開している。特に民具資料については、既に同じものを収蔵している場合にはお断りするケースが多い。

次に3点目について、刀剣はこれまでから「赤羽刀」を1振収蔵しているが、元館長(現:博物館資料取扱指導員)が主に手入れして下さっている。今回寄託を受けた刀剣4振は、いずれも劣化・損傷が激しく、所蔵者でも研磨等の文化財修復を検討されているが、資料の保存と防犯面の観点から、文化財修復の後も寄託を受けることになると思うので、刀剣の手入れ方法について継承しておきたい。

4点目の空調設備更新工事については、熱源機器の配管に付属している部品を更新したものであり、空調設備そのものや熱源機器の抜本的な更新を行ったものではない。

(副館長) 1点目にお尋ね下さった人員の件について、公開承認施設に関する文化庁の基準では、「館長」と「副館長」は学芸員資格を有していても、学芸員の数には含まないこととされている。自身が令和5年度から副館長となり、この基準では、学芸員は1人という状態である。このことについて人事当局にも伝え、学芸員数を拡充していく必要性を訴えていきたい。

また、会計年度任用職員の学芸員である歴史民俗調査員についても、年度当初から欠員となり、事務補助員を任用することで補っている。正規職員の学芸員を採用していく必要性を感じている。

(会長) 学芸員の数え方に基準があるのは知らなかったが、現在の人員では事業を進めるのにも苦勞されていることと思う。

(C委員) 開館当時を振り返ると、各分野の専門的な学芸員がいた。

博物館の事業には展覧会の開催もあるが、資料を収蔵し保存していくということがより大きな使命としてあって、そのためには収蔵資料に即した専門的な学芸員が必要である。専門性を十分に考慮した採用をお願いしたい。先ほど、刀剣の手入れの話で元館長のお名前が出ていたが、必要な人員をまず確保し、技術や知識を受け継いでいかなければならない。

(B委員) 学芸員の採用では、年齢のバランスにも考慮して欲しい。将来的な定年退職による入れ替わりに対応できるような体制を整えて欲しい。

(D委員) 歴史民俗博物館には看板がない。この建物が博物館であることをPRする意味でも、看板は必要ではないか。

先ほど収蔵スペースの話があったが、協議会委員が収蔵庫を視察する機会

を設けてもらえればより理解が深まると思う。

また、博物館事業に協議会委員が協力できることがあれば言って欲しい。

(E 委 員)

市民学芸員の会でも、館の事業に即した活動をしていきたい。

10月15日(日曜日)の「移築民家旧中島家ワークショップまつり」に協力した際、博物館実習生から、歴史民俗博物館のロビーに置いてあるピアノについて尋ねられたが、どのような経緯で置かれているのか。

(会 長)

もともと、中央公民館に置かれていたものを、中央公民館が閉鎖された際に歴史民俗博物館へと移すこととなった経緯がある。

(部 長)

ご意見を頂戴した人員の件について、開館当時の歴史民俗博物館は専門的スタッフが充実していたが、本市の財政健全化・人員削減の流れの中で、歴史民俗博物館の学芸員についても現在のような状況となっている。本市の定数管理も、一般職や各種の専門職を含めてのものであるが、歴史民俗博物館の学芸員についても、補充の必要性は人事当局に伝えている。人材育成が大きな課題であり、制度上の学芸員が1人のみになったということも含めて、人事当局に伝え、学芸員の確保に努めたい。

人員の問題は現場のみで決められることではないが、人事当局には伝えていく。

(副 館 長)

D委員からご指摘のあった看板の件については、検討していきたい。

協議会委員の皆様にご覧いただく機会については、資料の安全も考慮の上検討し、改めてご案内したい。

また、協議会委員としてのご協力についても、お申し出いただき有難く感じている。

(F 委 員)

自身も京都市歴史資料館に40年ほど在職したが、人事と予算のことについては事あるごとに訴えていく必要性を感じている。

歴史や文化は生活には直結しないが必要なものであり、文化財も人命には関わりないものの、一度失われると取り返しがつかないものであることを認識する必要がある。

歴史民俗博物館の会議室を会場に活動されている栗東古文書研究会について、会員の方が訪ねて来られ、古文書の読解について協力を求められたことがある。その方がおっしゃるには、以前は歴史民俗博物館の学芸員が例会にも参加してくれていたが、最近では以前ほどの支援がないということであった。

(事 務 局)

かつて、栗東古文書研究会が翻刻・読解した史料を小地域展で展示し、翻刻・読解について栗東古文書研究会からご協力いただいたことも含めて展覧会で紹介したことがある。現在、今年度の小地域展で取り上げる岡地域の史料を翻刻しておられるので、展覧会開催に向けた準備の一環として協力できることはしていきたい。

- (E 委員) 栗東古文書研究会の会員が、市民学芸員の会が毎月行っている輪読会に参加され、栗東古文書研究会への参加を呼び掛けられたこともあったが、市民学芸員の会の輪読会は、刊行物となった版本を読み進めていくもので、古文書の翻刻とは性格が異なることもあり、交流にはつながらなかった。
- (G 委員) 歴史民俗博物館の魅力を発信していくことが大切と感じている。  
将来のためにも、子どもたちが歴史民俗博物館に興味を持ち、歴史や文化を勉強したい、この仕事に就きたいと思うようなきっかけを作ることが必要と思う。  
移築民家旧中島家住宅での事業等、協議会委員としても手伝えることがあれば手伝いたい。
- (副 会 長) 活発なご意見、専門性のあるお話を伺えて良かったが、大切なことはワクワクする気持ちになり、行ってみたい、見てみたい、触ってみたいと思ってもらえるような歴史民俗博物館を作ることだと思う。  
栗東の豊かな歴史と文化を継承していくのが歴史民俗博物館の役割であり、1人でも多くの市民の来館につながるような工夫をして欲しい。  
収蔵庫の視察に関心がある。自身も旧家に住まいしており、自宅に民具がある。地元の小学校の「昔の暮らし」の授業の一環として、地域の人たちと一緒に民具を持参し、子どもたちに触ってもらう活動を続けているが、民具を触る子どもたちの表情に、こちらもワクワクする。  
多くの方に愛される歴史民俗博物館となることを祈り願っている。
- (会 長) 歴史や文化は、生活に直結しないでも、生きていくためには必要なものであるということ再認識した。

④令和5年度第2回(第57回)栗東歴史民俗博物館協議会の日程について

事務局よりいくつかの候補日を提示し、委員間での協議の結果、  
・令和6年1月16日(火曜日)午前10時開会  
に決定した。

⑤その他

- (副 館 長) 例年、関係団体等より、委員の推薦依頼等がある。基本的には次回の協議会で相談したいと思っているが、依頼の時期によっては、次回の協議会を待たず、会長と事務局で協議し、協議会委員の皆様には事後報告となるかも知れないがご了承願いたい。

3. 連絡事項 特になし

4. 閉 会

閉会の挨拶（福田 茂幸 館長）

閉会の挨拶（奥野 初恵 副会長）